

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	畜産課長 田邊 裕彦	電話番号	0852-22-5132
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	乳用牛生産振興事業		
目的	(1) 対象	酪農家	
	(2) 意図	酪農家の経営安定	
事業概要	乳用牛群検定事業の実施、および、平成27年に開催される第14回全日本ホルスタイン共進会への出品対策を講じることで、酪農の生産振興を図る。また、生産された生乳の安定的な流通を支援する。		

2. 成果参考指標

(1) 指標名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
式・定義	1頭当たりの年間生乳生産量(生乳生産量(牛乳乳製品統計)及び経産牛頭数(統計年報)により算出)					
達成率	103.40	100.50	100.00			%
指標名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
式・定義	0.00					
達成率	0.00	0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	2,837	7,348
うち一般財源(千円)	2,558	7,055

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基じた現状)

農家戸数の減少は進んでいるが、乳用牛の飼養頭数は横ばいで推移している。本年度の全体乳量は前年度を上回っている、牛個体の生産性は向上しており、1頭あたりの生産効率も向上している。しかしながら、飼料代の高止まりが続いており、酪農経営は厳しく、収益性向上のために中規模農家の増頭が必要になっており、近年規模拡大する農家が増加している。メガファーム(年間生乳生産量1,000t以上)が県内に10戸存在する(全体119戸)。

6. 成果があったこと (改善されたこと)

- 1頭当たり年間生乳生産量は目標を達成した。
- 乳用牛群に向けた成果を出すために開催する全日本ホルスタイン共進会出品に向けた出品対策本部を立ち上げ、県代表乳用牛出品対策準備を行った。

7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

酪農家の牛群検定加入率が36%と低迷している。年間生産乳量1000t以上のメガファームは独自で検定の代わりになる仕組みがあるが、飼養頭数の少ない農家は自身の経営の把握が十分になされていない。

②困っている状況が発生している「原因」

牛群検定を実施する作業が煩雑で、本来実施したい農家は多くあるが実現できていない。

③原因を解消するための「課題」

作業が困難であっても、実施する意義を酪農家にPRし、加入率を増加させたい。

8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- 関係機関と相談してPR機会を作る。
- 検定作業員等を配置し、検定作業が従前より楽になるよう改善対策をとる。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価 (任意記載)